

パネルディスカッション説明資料

話題2. 新規コミュニティに広げる努力
～JASMAの活動戦略～

戦略 I : 宇宙実験総合レビュー

1. 内容

- a. 単なる成果のレビューではなく、宇宙実験が地上の科学技術を発展、産業界が宇宙利用に新奇性を見いだす俯瞰的な論点を設定する。例えば、科学理論、モデリング、実験技術、応用化、国際協力など。
- b. 一般の研究者に科学技術の発展に貢献する宇宙実験の魅力を伝える。
- c. アカデミア、産業界の垣根を越えて、もっと多くの研究者が宇宙実験に参加できるよう対話の場を作り出す。

2. 対象となる実験テーマ

- a. マランゴニ対流
- b. 結晶成長(氷、タンパク質、モデル材料)
- c. 燃焼、ほか

3. 総合レビューの目標

- a. WSなどを開催し、レビュー執筆者が目的を共有し、成果の意義を高めるアイデアを交換する。
- b. 他学会の専門家を巻き込んでレビュー報告を作成し、公開、出版する。
- c. 過去の実験成果の評価でなく、新しい宇宙実験を発想することが狙い。



戦略Ⅱ：教育研究推進

1. 実験テーマ／教育パラダイムの設定

- a. 宇宙実験による実体験をもとに宇宙への“ワクワク感”を醸成。
- b. ビデオ教材のアーカイブ化、実験技術の標準化など、微小重力を教育ツールとして普及させる。

2. 学会間及び大学間の連携体制の構築

- a. JASMA会員による実験支援（テーマ設定、実験装置作製、解析・シミュレーション、サマースクール開催、など）。
- b. 学生ポスター発表・顕彰、IJMSA誌での論文掲載など。

3. 教育研究プログラムの目標

- a. JAXAとの連携により、「航空機による学生無重力実験コンテスト」を活性化する。
- b. ELGRA、アジア地域の研究機関、関連学会、大学との協力枠としてプログラム化を提案する。



毛利ポスターセッション表彰式

戦略Ⅲ：国際協力

1. 国際会議の開催

- a. 10th Asian Microgravity Symposium、AMS（2014年10月、韓国）
日本、中国、韓国、インド、マレーシア、パキスタン、タイ（計7ヶ国）。
- b. ISPS（International Symposium on Physical Sciences in Space）
2015年9月、第6回を京都にて開催。

2. 国際協力の目標

- a. 日本及びアジアの学生を対象としたグローバルな教育研究プログラムとしての連携体制を構築する。
- b. 2020年までにISS 上での国際教育研究ミッション枠（“宇宙実験オリンピック”、各種交流行事）を創出。

